

# おぼろげ

# 労働学校で

# 日刊 労働千葉

# 5月12日開校

# さくら、さー回講座がスタート

84. 5. 8

No. 1634

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二（22）七〇七



私達をとりまく情勢は、体制的危機とあいまって、激動の時代に突入しているといえます。それは、戦後最悪の反動・中曽根内閣の登場によって、具体的に、しかもより露骨に表われています。

中曽根がかかげる「戦後政治の総決算」とは、あらゆる意味において、体制側からの危機のりきりをかけた、反動攻撃そのものであり、軍事大国化・憲法改悪は、戦争への危機と切迫をあらわにしています。

そしてこれらは、国内における支配体制の再構築に向けた、日本労働者・人民に対する、排外主義的、企業防衛主義的イデオロギー攻勢の強まりとなってかけられています。

いま私達に求められていることは、これらの反動的イデオロギーに真に対決できる階級的視点と、なによりもこれにうちかつことのできる階級的思想をなんとしても学ぶことにあります。このような目的をもって、第八回定期大会で確認された方針の具体化として、次の要綱で、「労働千葉労働学校」を設立するはこびとなりました。「労働学校」での学習がその重要な一助として担いようことを確信し、多くの組合員の皆さん、それに友誼単産の仲間のみなさんの積極的な参加・学習をよびかけます。



## 労働千葉 労働学校

### 講師陣

- 学長・高島 喜久男氏（労働運動研究家）
  - 顧問・浅田 光 輝氏（立正大学教授）
  - 講師・鎌倉 孝 夫氏（埼玉大学教授）
  - 〃 降旗 節 雄氏（筑波大学教授）
  - 〃 高島 喜久男氏（労働運動研究家）
  - 〃 浅田 光 輝氏（立正大学教授）
  - 〃 田 中 学氏（東京大学教授）
- その他多彩な講師陣を予定・・・

### 設置科目

- 資本主義のしくみ（賃労働と資本）
- 帝国主義とは（帝国主義と現代）
- マルクス主義入門
- 社会主義とスターリン主義
- 民同労働運動批判
- 核戦争の危機と労働者階級
- 国家と革命
- 日本帝国主義の話
- 国鉄・臨調の話
- ロシア革命と現代
- 春闘をめぐる情勢
- 労働運動の話（現代版）

### 期 間

- ・ 一九八四年五月～一九八五年三月
- 一カ年（月一回受講）
- ただし、六月は二回の受講
- ・ 前期・一九八四年五月～九月
- 後期・一九八四年十月～一九八五年三月

### 一カ年設置科目及び日時予定

#### I 前期講座予定

- 1984年
- 5月12日（土） 12時30分～17時  
（資本主義のしくみ（賃労働と資本））
  - 6月2日（土） 13時～17時  
（帝国主義とは（帝国主義と現代））
  - 6月30日（土） 13時～17時  
（マルクス主義入門）
  - 7月28日（土） 13時～17時  
（社会主義とスターリン主義）
  - 8月25日（土） 13時～17時  
（民同労働運動批判）
  - 9月22日（土） 13時～17時  
（核戦争の危機と労働者階級）

（裏面へつづく）

II 後期講座予定

- 10月13日(土) 13時～17時  
△国家と革命▽
  - 11月17日(土) 13時～17時  
△日本帝国主義の話▽
  - 12月15日(土) 13時～17時  
△臨調とは▽
- 1985年
- 1月20日(土) 13時～17時  
△ロシア革命▽
  - 2月17日(土) 13時～17時  
△春闘をめぐる情勢▽
  - 3月10日(土) 13時～17時  
△労働運動の話▽

入学資格

・ 動労千葉組合員及び友誼単産労働者

募集人員

第一期 五〇名(予定)

入学手続

- ・ 組合員の場合は、各支部ごとに推薦
- ・ 他単産労働者の場合は簡単な経歴を明記の上  
千葉市要町二の八 動力車会館内  
動労千葉「労働学校」事務局宛送付

入金金その他

1. 一カ月 一〇〇〇円
2. 一カ年 一〇〇〇〇円(いずれも資料代込み)
3. 組合員は別途

※ ただし、教科書代は自己負担とする。

△本科▽

一カ年継続を必須の条件とする。

△聴講生▽

科目別聴講生も若干可

(その都度申し込みを受け付けます)

第一回 動労千葉 労働学校 ご案内

① 開校式

・ 日時 五月十二日(土) 十二時三十分

② 前期第一回講座

・ 日時 開校式にひきつづき

五月十二日(土) 十三時三十分～十七時

・ テーマ

「資本主義のしくみ」

― 賃労働と資本 ―

・ 講師

埼玉大学教授 鎌倉孝夫氏

①、②とも会場は、動力車会館(千葉市要町二の八)